

安心とつるおのり下町川の手をめぐりて

# 防災 まちづくりの 版

第八号



発行ノ一寺言問の防災まちづくりをすすめるおのり下町川

昭和61年11月1日

## 一言祭づくりのエネルギーを

### 「防災まちづくり計画案」の立案へ

九月二十一日(日)、一言祭が元気に開催されました。心配された雨もあがり、会場になった東向島一丁目子ども広場(地藏坂通り)は、終始多くの参加者で賑わいました。地元団体が準備・運営された一言祭は大成功でした。

今後は、実行委員長や副実行委員長のご挨拶にもありましたように、この一言祭を契機にし、二十一世紀に向けてこの一寺言問地区を災害に強く、そしてうるおいのある住み良いまちにしてゆくまちづくりの推進により力をいれていきたいと思っております。

一言祭の友は、懸案になっております一寺言問地区の防災まちづくり計画案の立案です。この計画案に皆さんの一言を、

副武勝商実行委員長



会場を埋めた参加者



まちなかオリエンテーリング



防災フェイズ大会



前日の夜まで降り続いた雨がやんだのは、やはり私たちの日頃の「おこないがいいからであらうか。夕方には暗闇が見え、夜は星空の下でコンサートが開けるほどに天候が回復してくれた。  
雨あがりだからか、子供たちごとにかく大勢やってきました。彼らの目的は、一時半からはじまる「まちなかオリエンテーリング」。約二百名の子供たちが集まり、開会前にすでに会場の賑わいは最高潮に達した。  
午後一時すぎ、副武勝商実行委員長のあいさつで幕は明かされた。

空き缶による救世出しの実演



地図を頼りに指定されたポイントへ行き、そこでその防災施設(あるいは歴史的施設)を説明したカードを集めてくる「まちなかオリエンテーリング」。時間を愛づるムではないが、子供たちははかばか足で会場を飛び出した。  
子供たちがこのまちにある防災施設の意味をどの程度理解したかどうかはわからない。ただ、地図を縦にしたり、横にしたりしながら、十一ヶ所のチェックポイントを探したことや、ふだんあまりみることのできない備蓄倉庫の中にはいったこと、初めて井戸のポンプをさぐり水をくんだことなどは、貴重な経験になったはずだ。  
会場にもどってきてはくくじの賞品が、非常用持出袋、ラジオ付懐中電灯...と、防災づくめだ。だが、子供たちは「楽しかった」「来年も参加したい」と喜んでいました。



オリエンテーリング参加の子供  
訓練などがおこなわれたが、今回ははじめてという若い主婦など約三十名が参加した。  
子供たちが帰ってきた三時ごろからは、婦人消防官出題の防災ク





三三消防服試着会



ペンキング・パフォーマンス



苗木の無料配布



わいわい会の展示



あいさつにたつ墨田区の浅川敏彦市長  
備部長(右)と島崎易二副実行委員長(左)



ストリートジャムパフォーマンス

ステージ上では、開会と同時に、若手イラストレーターによる、ペ

ンキングパフォーマンス  
展示会も好評だった。中でも防  
災課のテントでおこなわれた空き  
缶をつか、た炊き出しコーナーは、  
そのユニークさに加え、地元の主  
婦らが指導、実演していたことも  
あって、人気があつたようだ。  
わいわい会も会場中央に展示コ  
ーナーをつくり、会の紹介や瓦版  
の配布の他、八月におこなわれた  
まちなか探検会の報告と、路地専  
(裏面参照)の提案をおこなった。  
それらのパネルを前に、まちづく  
りについて語りあふ光景もみられ  
た。

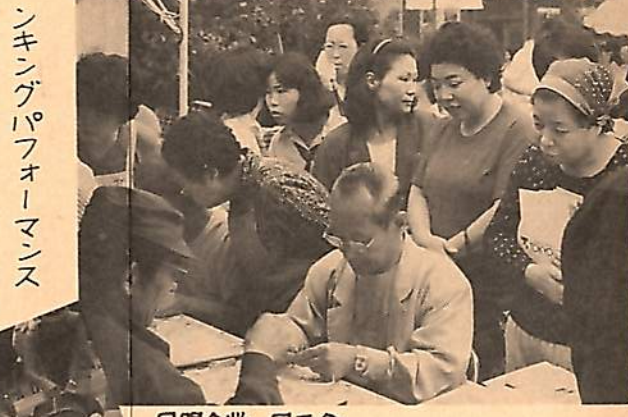
午後四時から苗木の  
無料配布がはじまると、会場の平  
均年齢はぐっと高くなった。この  
苗木配布は、墨田区が都から緑化  
地区に指定され、防災まちづくりに  
を進める一寺言問でも、防災効果  
のある緑化を積極的に進めてもら  
おうと企画されたもの。実行委員  
長、副実行委員長も、実行委員と  
いっしょに、行列をつくり、並ん  
だ三百名の一人ひとりに苗木を渡  
した。



よしつね太鼓

ステージ上では、開会と同時に、  
若手イラストレーターによる、ペ  
ンキングパフォーマンス  
展示会も好評だった。中でも防  
災課のテントでおこなわれた空き  
缶をつか、た炊き出しコーナーは、  
そのユニークさに加え、地元の主  
婦らが指導、実演していたことも  
あって、人気があつたようだ。  
わいわい会も会場中央に展示コ  
ーナーをつくり、会の紹介や瓦版  
の配布の他、八月におこなわれた  
まちなか探検会の報告と、路地専  
(裏面参照)の提案をおこなった。  
それらのパネルを前に、まちづく  
りについて語りあふ光景もみられ  
た。

午後六時になると、展示会場に  
はスポットライトがともり、コン  
サート会場に変身した。そしてジ  
ヤズと太鼓という音楽的に異質な  
バンドがそれぞれステージに立ち  
一言祭のフィナーレを飾った。ジ  
ヤズはし、とりとした歌声で、太  
鼓は心踊るような力強い音で、初  
秋の夜を奏せさせてくれた。  
閉会のあいさつにた、島崎易  
二副実行委員長は、実施にあた  
って御尽力をいただいた地元の約百  
名の実行委員と関係各機関に感謝  
の意を表した後、「一言祭を契機  
に、二十一世紀に向けて、この一  
寺言問地区を災害に強いまちにし  
ていこう」と結んだ。



テージでは、消防署による応急救  
護訓練の実演がおこなわれた。防  
災訓練ではおなじみの人工呼吸の

計画づくりに向けて  
①防災まち  
づくり計画は、具体的な整備  
内容を定めるのではなく、ま  
ちづくりの目標と方針をまと  
める。②各団体から代表とし  
て選出されたメンバー(各団  
体から二〜三名)が、わいわ  
い会の作成した原案をたたき  
台にして検討を重ね、来年の  
四月に墨田区長に提案する。こ  
れらは各町会で再度議論  
した後、予定通り進め、今  
月中に正式に発足し、計画の  
検討がスタートする。

現在すすめている防災まち  
づくり計画の立案は、地区内  
の六つの町会とわいわい会で  
構成された協議会「一寺言問  
を防災のまちにする会(略称  
一言会)」で検討してゆくこ  
いう方針が、先日(10月28日)  
におこなわれた各町会長(あ  
るいはその代理人)とわいわ  
い会の世話人との会合の中  
でまとまった。

一言会(計画検討組織)  
近く発足へ



民間企業への展示会  
(東京電力の電気教室)

三世代記念撮影看板



残りゲームで、少し静かになった  
会場がまた子供たちの声で賑やか  
になった。参加者は約百名。子供  
たちにはちよ、びり難しいクイズ  
だったが、楽しみながら防災学習  
をするというこのイベントの主旨  
にふさわしい企画のひとつだった。



# 防災まちづくり計画を検討するとき、知っておきたい一寺言問地区が抱える防災上の課題

防災まちづくり計画を立案してゆくにあたり、わいびい会ではこのまちづくりの専門家の立場で参加しているマナ都市建築研究所に、「一寺言問の防災まちづくりの課題をまとめてもらいた。今回はその一部を紹介する。」

## 一寺言問は四つのまちに分けることができる

一寺言問地区を客観的に眺めると、次の四地区に分けることができる。防災まちづくりの課題を述べる前に、共通認識として、この四地区の特性を述べる。

### ＜臨田川沿いのまち＞

皇通一丁目と向島五丁目の一部かつての臨田川の河川敷である。明治四三年の大水害後に現在のカミナリ堤防が築かれ、アサヒビルなどが進出するのだが、それ以前は、北に小松島庭園、南に大倉別邸がある、風光明媚な桜の名所として賑わったところである。昭和四〇年代後半から工場跡地などに住宅が建ち並び、比較的新しい住宅地を形成している。また、日本電気機器の移転、アサヒビルの倉庫建替など、現在最も変貌の激しいまちである。

### ＜寺社のあるまち＞

江戸以前から、地区一帯の氏神の白鬚神社の他、蓮花寺、去泉寺があり、「寺真」という地名を生んだ東向島三丁目。幕末には向島百花園が開かれ、その周辺に比較的地域規模の大きな住宅が建てられた。大正期以降の工業都市化の影響を受け、工場の進出をみるが、全体的には寺社のあるまち、屋敷

のあつたまちの歴史を現在に引き継いでいる。

現在は、いわゆる屋敷はみられぬが、庭や塀を持つ住宅が多く、学校や寺社の他、駐車場が散在し、空間的な余裕がみられる。また工場、事業所、病院、マンションなど比較的地域規模の大きな不燃化建築が多い。しかし、木造家屋が八割を占め、また六メ級の道路にも部分的に狭路部があり、決して災害に強いまちの構造ではない。

### ＜路地の多いまち＞

東向島一丁目と向島五丁目の東部地区及び東向島三丁目、地蔵坂通り沿いで、一寺言問地区の中央部を占める。このまちの構造は、明治末から大正にかけてつくられた。当時、まちの大半は水田であった。だが、工業都市化の波を受け、農道や水路などに接道して工場などが建ち、その裏手に労働者住宅（長屋街）がつくられたのである。従って路地が発達しており、消防車のはいりにくいところが多くある。このため、建替が難しく、老朽木造家屋が高密度に建て込んでおり、墨田区でも、京島地区に次いで防災上の課題の多い地区になっている。

### ＜料亭街だったまち＞

墨堤一帯の名所への来街者を対象に建てられた料亭は次第に数を増やし、向島の料亭街を形成した。その料亭街の一画がこの地区（向島五丁目の西部地区）である。そ

の料亭も花柳界の構造的な低層から減少が著しく、マンションの立地が進み、「料亭街だ、たまち」に逆行しつつある。このため、情緒ある景観が損なわれる、といった声もでている。

防災的な観点からみれば、このまちは戦災復興事業の区画整理でできたため、道路はし、かりしている。また防火地域に指定されていることもあり、市街地の不燃化は進んでいる。

## 防災まちづくりをするためのいくつかの課題

### ＜建替を促進する環境づくり＞

燃えにくい建物を多くしていけば、それだけ延焼の危険は少なくなる。一寺言問地区もこの間、不燃化は進んでいるものの（最近十年間に延床面積比で31%→40%）まだ低い状態にある。特に東向島一丁目は、不燃化率が25%と低い上に密集しているため、震災時の延焼の危険性が高い。墨田区がすすめている幹線道路沿いと小学校周辺の不燃化により、延焼遮断帯の形成を促進してゆく他、建替能力の比較的に高い若年層の定住化（三世同居住宅の建設など）や細街路の整備やオーラススペースの拡大等による総合的な住環境の改善を図りながら、地区内部の建替を促進してゆく必要がある。また近隣間で共同で建替えて住水面積を増やしたり、協定を結んで空地を生みだしながら、防災性能を向上させてゆくことも必要である。

### ＜細街路の拡張と改良＞

出火点と消防水利の距離から考えると、震災時の消防活動を担保する六メートルから八メートル程度の道路は、概ね二五〇メートル間隔にあることが望まれる。この点を踏まえると、一寺小と言問小の間あたりに一本の道路を、現道の拡張、あるいは一部増設により、新設する必要がある。

一方、幅員四メートル未満の細街路は、建築基準法で、前面道路の中心線から二メートル後退して建築しなければならぬことになっているが、建築後にブロック塀や物置などを増設するケースもあり、十分な効果が上がっていない。



マンションの防災訓練  
（千代田区向島百花園）

小型ポンプ車ならば、幅員四メートル未満でも街路形状によってはある程度まで進入が可能とされているから、建築基準法を厳格に適用してゆくことを原則としながら、重点的な拡張整備路を指定して整備してゆくことが必要である。また電柱の地下化ないしは後退、交差点部分の改良、ブロック塀対策などの、道路環境の総合的な改善を図りながら、整備してゆくことも必要である。

### ＜空地の確保と公園づくり＞

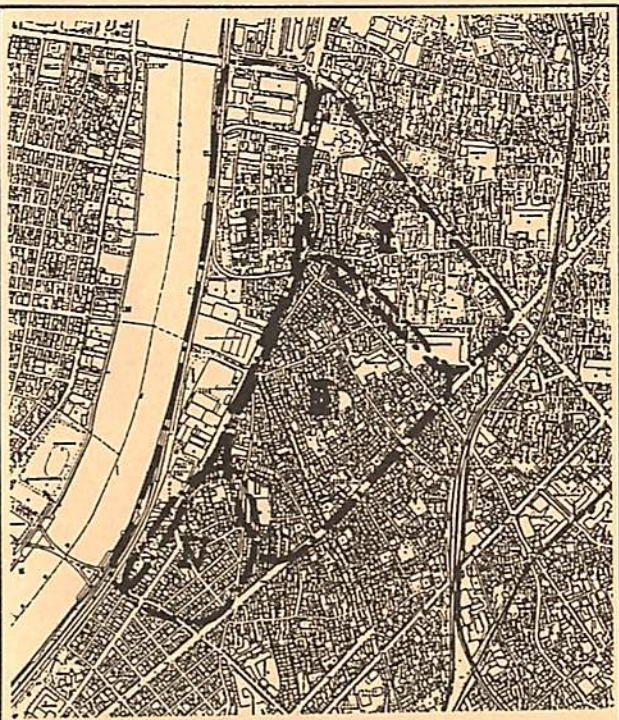
公園は臨田川沿いに連続的に配置されている他、向島百花園があり、児童遊園四ヶ所を含めた公園面積は約四・五ha、一人当りに直すと三・七㎡であり、一人当り三㎡以上という水準を満足している。また神社仏閣の境内や学校の校庭面積も加えると、区内でも比較的に恵まれた状況にある。しかし、利用圏からみると、東向島一丁目など、公園の増設が必要な地区がある。

### 東向島一丁目の公園面積は、

一〇・二㎡。一人当りでは、〇・三㎡しかなく、三㎡の水準を達成するには、現在の十倍の一haの公園が必要ということになる。消防水利条件も充分でないことから、防災機能を備えた公園の設置が必要である。

また公園としてだけでなく、住環境整備の事業用地としても、また、空地を確保してゆく必要がある。

臨田川沿いの公園は、アクセス（接近）路が不十分な上、沿道者のためり場になっていたり、市民が利用しにくい状況にある。臨田川に沿った公園という豊富なストックを活かし、大震災時の避難地としての機能を高めるために、日常的に魅力的な公園として整備してゆく必要がある。



一寺言問は4つのまちに分けられる  
I. 臨田川沿いのまち II. 寺社のあるまち  
III. 路地の多いまち IV. 料亭街だったまち



# わいわい会の世話人が、まちなかを探険した後 地図を囲んだときにでた防災まちづくりの提案

八月二十六日、わいわい会の世話人会では、防災まちづくり計画の案案づくりに向けて「まちなか探険会」をおこなった。これは、普段とはちがった見方でまちを歩き、その共通体験をもとに、地図上で防災まちづくりを考えた「二つ」という企画。「二つ」これは京

「誇れる(悪い・危ない)」という評価の視点と、「二つ」これは「二つ」したかどうか」という提案の観点を持って、約二時間半、地区全域を二手に分かれて歩き、その後、千分の一の地図を囲んで、「防災まちづくりで取り組むべき問題は何か」「こんなまちになれ



は、安全で快適なまちになる」というテーマで自由に話し合った。平日に開催したため、参加者は十二名と少なかつたが、有意義な議論が展開された。以下、その時にでた意見の一部を紹介しよう。

- ① 防災上最も問題のある東向島一丁目一帯は、道路を拡張することも困難な地区。家を建てる時には、道路の中心線から二m以上後退して建てるなければならないという建築基準法に示されたルールをきちっと守れば、幅員四mの道路は自然とできあがっていくはずだ。それに、消防車のはいれる幅員の道路でも、道にはみだしていろいろなものを置き、狭くしている。社会的なルールを守るだけでもずいぶん安全性が高くなる。
- ② 延焼防止には、まちの中に適度な空地が必要だ。あちこちに散在する駐車場は防災上も大切な空間だ。建物が建つまでの暫定的な利用でなく、できるだけ空地であ



二時間半まちなかを探険(上)した後、大きな地図を囲んで探険の報告会(中)

- ③ 地蔵坂通りは、自動車の往來が激しく、安心して歩くことができない。一方通行にしたかどうか。九mの幅員を生かしてゆっくりと歩けるフロムナードにしたかどうか。だろうか。

## 一寺言問地区が東京都の民間緑化モデル地区に

二の10月1日から5年間、墨田区は東京都の緑化地区として、一層緑化に力を入れることになった。特に一寺言問地区は、東京都の民間緑化のモデル地区として、良好な地域環境を住民の人たちと協力して創出する「墨田区特定大規模地域緑化」の区域に指定された。これにより、都と区は民間の緑化を進めるために、生け垣化や事業所等の沿道緑化に対して特別の補助をする。また地域緑化を進める自主的な活動に助成する。

講師 ● 三野信雄氏(あひまよし環境文化協議会代表幹事) 木村輝久氏(同事務局)

日時 ● 11月11日(火)午後2時~4時

場所 ● 向島百花会館(東向島三丁目)

料金 ● 無料(参加者は、カゴインキヤクシンの料金を記念品としてお返し)

問い合わせ先 ● 墨田区緑化係

TEL(六三六)三二五二(内線655)

第二回まちづくり講演会

「火災と緑」

講師 ● 岩河信文氏(明治大学講師)

日時 ● 11月27日(木)午後7時~9時

場所 ● 未定(直ぐに連絡いたします)

「墨田区発」

一寺言問地区内の

土地情報を求む

近頃、一寺言問地区内でも土地をめぐる様々な動きがある模様。わいわい会では、防災まちづくりをすすめるために、地区内の土地情報を集めている。土地に関する情報を、わいわい会事務局までご連絡下さい。

TEL(六三六)三二五二(内線655)

## 路地の安全を守る要石 路地専をフレセント

わいわい会では、路地の安全とつながりのために、「路地専(ろじせん)」というストリート・ファミリー(屋外家具)を開発した。一見じゃれた掲示板(図)に見えるが、消火器や防災無線(中)を内蔵、ホース・ホーキ・千リトリが収納されている。高さ一八〇cm幅九〇cm、奥行二〇cmの路地専を希望の路地の皆さんにフレセントします。詳しくは、わいわい会事務局まで(TEL番号前出)。



東向島一丁目 須賀 健さん

若い頃は、さぞ女性にもてたであろうルックスの持主。現在は、地蔵坂商店街でカメラ屋さんを営みながら、精力的に地域活動にも参加する忙しい人だ。九月二十一日に開催された一言祭でも、家が近いこともあって、連日ご尽力いただいた。



真面目で律儀な上に博愛な人というところ、近よりがたい感じだが、意外に親しみやすいところもある。ユーモアもたっぷり持ち合わせ、ちょっとはにかんだような笑顔には親しみを覚える。

今までの、古い下町のイメージを、モダンなものにしたいと願いつつも、伝統あるこのまちを愛してやまない一人だ。

「村田里美」  
追伸、昔懐かしな狸取りの腕前は今までも名人級だとか。